

講義名	日本近代思想史		
担当教員	田中 美子		
開講期・曜日・時限	後期 水曜日 3時限	授業形態	講義
履修開始年次	2年生	単位数	2
主題と概要 本学の創始者である中内功は「個性主義」を建学の理念として掲げている。また、福沢諭吉の「実学」重視の姿勢も受け継いでいる。こうした「個性主義」や「実学」重視の思想は、実は近代以降の価値観である。この価値観に基づいて、私たちは「個性を生かせる」仕事や生き方、「自分の好きな」仕事や生き方を目指す。しかし、実社会では「個性」を評価されている実感が得難く、置くこともあるだろう。このような時に、自分の状況を俯瞰し、自分のキャリア等を考え直せるような幅広い視野を、学生が得られることを目指す。			
到達目標 1. 近代日本が、西洋から個人主義をはじめとする近代思想を導入した経緯や、その長所と短所を知る。 2. 「自分の人生は自分で決める」という個人主義の立場で、自分のキャリア形成や生き方を考える契機を得る。			
提出課題 1. 授業毎の課題（振り返り） 2. 学期末レポート			
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック 前回提出の振り返りに対して、全体に向けてコメントを返す。			
評価の基準 1. 授業毎の課題 約30% 授業の内容が反映されていること。 2. 学期末レポート 約70% 文献等に基づいて調べた内容が客観的にまとめられていること。また、自分の考察が根拠とともに述べられていること。			
履修にあたっての注意・助言他 授業計画は、受講者の関心に応じて、多少変更することがある。 後期は新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスが修正される可能性がある。			

教科書 ・哲学のヒント。 藤田正勝 岩波書店（岩波新書） 760 978-4-00-431413-4				
プリント資料及び参考文献 石井淳蔵『中内功』PHP研究所 福澤諭吉『字問のすすめ』岩波文庫 福澤諭吉著、斎藤孝現代語訳『字問のすすめ』ちくま新書 西田幾多郎『善の研究』岩波文庫 和辻哲郎『風土』岩波文庫 丸山眞男『日本の思想』岩波新書				
授業計画 1. 中内功の「個性主義」の思想 2. 中内に影響を与えた福澤諭吉の「実学」思想 3. 福澤を現代に生かした丸山眞男の「する」論理 4. 現代において「よく生きる」とは（教科書第1章「生」） 5. 「私らしき」生き方とは（教科書第2章「私」） 6. 個性を人間関係から考える和辻哲郎の人間存在論 7. 宗教なき現代における虚無としての死（教科書第3章「死」） 8. 生のリアリティはどこに（教科書第4章「実在」） 9. 医師（白野原圭明、小澤竹枝等）の考える「いのち」の大切さ 10. 生の「脈動」に触れる（教科書第5章「縁起」） 11. 生の経験を言語化する西田幾多郎の哲学 12. 「ここ」の世界を切り開く（教科書第6章「言葉」） 13. 福澤における「漢語（言語化）のススメ」と「判断力の鍛え方」 14. 私らしく「ある」ことの楽しみ（教科書第7章「美」） 15. 自然の美、作為の美（教科書第8章「型」）				
授業形態（アクティブ・ラーニング） ○ ア：PBL（課題解決型学習） イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ウ：ディスカッション、ディベート エ：グループワーク オ：プレゼンテーション カ：実習、フィールドワーク キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）				
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 予習：次回の課題に関する文献（教科書）等の読解（2時間） 復習：文献等の再読と学修ノートのまとめ（2時間）				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 「ネアカ のびのび へこたれず」の精神を培うとともに、現代社会の現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる。				
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述 受講者は、授業毎の課題をポータルサイトを通じて提出する。 受講者の関心を、次回以降の授業内容に反映させる。 フォローが必要な場合、個別にコメントを返す場合もある。				
実務経験の有無及び活用 特になし。				
備考 中内功の「功」は常用漢字で代用している。				